

重点施策1 特色ある学校づくりと教職員の資質・能力の向上

【施策方針】

- 学校の教育目標の明確化と学校評価システムの改善
- ブロック別研究推進体制を生かした交流と連携
- 「三層の情報還流方式」による児童生徒の健全育成と家庭・地域社会の教育力の活用
- 校内研修の充実

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 特色ある学校づくり
- ② 幼・保・小・中の連携教育
- ③ 家庭・地域社会との連携
- ④ 現職教育の充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 特色ある学校づくり

教育計画（教育目標を具現化するための方策を示したもの）を作成させるとともに、年2回の学校訪問・学校視察等を通して、その実現状況の説明を求めるとともに、学校組織マネジメントの視点に立った指導を行った。さらに、自己評価、学校関係者評価等の充実・改善を奨励し、その取組の概要報告も継続している。

② 幼・保・小・中の連携教育

ブロック別研究会を年間2回開催した。児童生徒の体験活動や家庭・地域への啓発だけでなく、学力の定着向上や健全育成及び地域と一体となった体験活動の充実に向けて各ブロックが積極的に取り組み、小中連携教育の充実を図ることができた。また、各小学校においては、諸活動を通じて、小学校間や幼・保との連携に努めた。今後、学校統合によるブロック再編について検討する必要性が出てきている。

③ 家庭・地域社会との連携

校内いじめ対策委員会、ブロックいじめ対策委員会、市いじめ対策委員会を毎学期開催し、いじめ対策や児童生徒の健全育成についての情報交換を行った。また、各体験活動においては、各学校・ブロック単位で、生涯学習課の「浜っ子人材銀行」等を参考として、家庭や地域の人材を積極的に活用した。学校と家庭、地域との連携の重要性に関して、各校による家庭啓発や八幡浜市広報を通じた啓発も継続している。

④ 現職教育の充実

教職員自らの資質と指導力の向上を児童生徒の成長につなげるため、自校の現職教育の計画により、授業力向上を中核とした様々な研修や服務規律の遵守にかかわる研修を行っている（各校年間40回程度）。教育委員会としては、この計画の実施について、研修主任会での指導を行っている。

また、教科等部会や教科外部会においては、年間30回を超える授業研究や講師を招聘しての研修（延べ20回）を積極的に進め、教科指導力の向上を図った。さらに、職務別研修を定期的に実施し、教職員の資質・能力の向上について共通理解を図った。

校務支援システムについては、小・中学校の通信簿・指導要録の電子化も2年目となり、大

きなトラブルもなく、当該システムは軌道に乗ったと思われる。今年度から、コラボノートの活用も進め、リアルタイムでの情報共有が可能となった。これにより、感染症や非常変災時の対応の情報共有を円滑に行うことができるようになった。今後、教職員の情報活用能力の一層の向上が期待できる。さらには、校務の情報化・効率化によって生まれたゆとりを児童生徒に向き合う時間の確保につなげ、一層の教育活動の充実を期したい。

【学識経験者意見】

- 年2回の学校訪問・学校視察等は、教育計画に沿った取組がなされているかの状況を把握する機会として、また教育委員会の方針を直接指導するよい機会ともなっている。その中で、学校の抱える問題を共有し、共に自校の子どもたちのために、という関係ができてくるように思う。
個々の教職員も、面接等において個人的事情や思いを伝えることができ、聞いてもらうことにより、必要とされているという意識が生まれるように思う。
- ブロック別研修体制は本市独自のもので、体験活動や地域啓発活動により、学力の定着や児童生徒の生徒指導上の課題への対応など確実に成果があがっている。今後も、学校間教職員の連携を強化し、その結果としてブロック間の切磋琢磨に期待したい。
- 「三層の情報還流方式」による、校内、ブロック、市と縦の連携した取組は、いじめ、不登校等の出現率を下げ、児童生徒の健全育成に大きな成果をもたらしている。今後もこの取組がマンネリ化しないよう一層充実させて欲しい。
- 各学校とも、現職教育の計画に沿って授業力向上を柱に校内研修がされている。これは当然ながら相当のエネルギーを費やすと思う。その先生方の負担をできるだけ少なくしようと導入されたのが校務支援システムである。これも2年目になり定着してきたと思う。更に研修を重ね有効活用していただきたい。

【自己評価】

- 学校訪問や学校視察は、全教職員へ市教委の方針や喫緊の課題について、指導・徹底するよい機会であり、今後も継続していきたいと考える。しかし、学校の抱える課題が多様化する状況の中であって、一斉指導のみでは対応できない場合もあるため、訪問時の指導方法を検討していきたいと考える。個々の教職員への面接については、御意見のとおりであり、是非話しやすい雰囲気を実施できるよう配慮していきたい。
- 平成26年度は、八代ブロックにおける教育研究大会が実施される。この大会を中核として、その成果と課題を共有して、ブロック体制の一層の充実を図っていきたい。また、今後のブロックの再編については、学校再編の見通しが立つまでの検討課題としたい。
- 三層の情報環流方式をマンネリ化させないため、環流させる情報が実践につながるような取組となるよう工夫したい。(情報連携から行動連携へ)
- 校務支援システムは、軌道に乗ってきたと思われる。また、学校事務部会が平成25年度において、当該システムの研究を行ったことから、当該部会の協力を得つつ、一層の効率的運用を図っていきたい。また、情報共有のシステム(コラボノート)についても、防災等の危機管理での活用を図りたい。